

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 25 日現在

機関番号：10101
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2016
課題番号：26780077
研究課題名(和文)現代アメリカの公職選挙と支持基盤の変容：分極化時代の政党ネットワークの形成過程

研究課題名(英文)Coalition-Building Evolution of the American Political Parties in the Age of Ideological Polarization

研究代表者
渡辺 将人(Watanabe, Masahito)
北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・准教授

研究者番号：80588814
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代アメリカにおける民主党と共和党が、支持基盤の変容にどのように対応しているのかを選挙過程から分析するものであり、大統領選挙と連邦議会選挙の運動過程を検討した。民主党側は、オバマ政権の誕生に触発されたマイノリティやリベラル系の活動家が穏健派と共存する形で連合を形成していけるのか、また共和党側は、ティーパーティー運動に象徴される保守派の支持基盤を政党指導部と穏健派が包摂できるのか、分極化時代における「政党ネットワーク」の形成過程と課題を実証的に明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study discusses the American Presidential and Senatorial elections, focusing on how the Democratic Party and the Republican Party reach out to their base votes when changing with current political dynamics. To get a better picture of the political parties' coalition-building process in the age of ideological polarization, this study analyzes how the progressives built a coalition, such as with the moderates beyond the so-called "Obama coalition," on the Democratic side and how party establishments could embrace the conservative activists, such as Tea Partiers, on the Republican side.

研究分野：政治学

キーワード：アメリカ 公職選挙 政党 民主党 共和党 分極化

1. 研究開始当初の背景

アメリカの2大政党は、支持基盤である選挙民の種々の変容への対応を迫られている。第1に、イデオロギー的な分極化による変容である。人工妊娠中絶や同性婚など宗教的な文化争点、保守とリベラルを分断する要素として2000年代のブッシュ政権下で拡大したが、医療保険改革に象徴されるオバマ政権下の「大きな政府」路線はティーパーティ運動など草の根保守運動を刺激した。他方でリベラル系活動家は「ウォール街を占拠せよ」運動で民主党の中道化を牽制し、超党派路線を阻害する左右の分極化が深まっている。第2に、人口動態の急激な変化である。南西部を中心にヒスパニック系の増加率は著しく、共和党は伝統的な白人プロテスタント信徒を基礎票とするだけでは、安定多数を維持できない時代となりつつある。第3に、技術的な変容である。2008年大統領選挙以降、ソーシャルメディアが支持者の草の根の「オンライン組織」を形成するツールとして本格的に浸透している。これまで分極化に焦点を絞った研究を進めてきたが、政党が党内の支持基盤の分断にどのように対応しているかについて、また分極化の間接的原因ともなっている人口動態、さらにソーシャルメディアなど技術上の変容への政党の適応過程は、実証すべき研究課題として積み残されていた。

2. 研究の目的

本研究は、現代アメリカにおける民主党と共和党が、支持基盤の変容にどのように対応しているのかを選挙過程から分析するものである。イデオロギー的な分極化による変容、人口動態の変容、政党と支持基盤を結ぶ技術上の変容という3つのレベルの変容に焦点を絞り、大統領選挙と連邦議会選挙の運動過程を検討した。民主党側は、オバマ政権の誕生に触発されたマイノリティやリベラル系の活動家が穏健派と共存する形で連合を形成していけるのか、また共和党側は、ティーパーティ運動に象徴される保守派の支持基盤を政党指導部と穏健派が包摂できるのか、分極化時代における「政党ネットワーク」の形成過程と課題を実証的に明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究の計画は、以下の3段階で行われた。第1段階として、アメリカの政党と支持基盤との関係を先行研究に基づいて明らかにした。第2段階として、2014年の中間選挙、2016年の大統領選挙に際して、政党や候補者の陣営がイデオロギー的な分極化、人口動態の変容、新技術の浸透にどのように対応しているかのデータを現地調査で収集すると共に、聞き取り調査による非参与観察の質的調査を行った。第3段階として、収集データを先行研究に照らして位置付け、近年の選挙過程の事例と比較検討することで、民主党と共和党に

よる支持基盤連合の形成過程を明らかにすることを旨とした。選挙運動分析においては、政党が有権者集団に手を伸ばして取り込みを行うアウトリーチ戦略を観察することで、支持基盤との関係深化の過程の可視化を狙った。

4. 研究成果

(1) 第1に、両党の活動家の掘り起こしの詳細を確認した。民主党側では民主党全国委員会本部と連動したコミュニティオーガナイズ方式の組織形成を土台にしたアウトリーチ戦略の拡大が見られたが、共和党においてはインターネットを駆使した運動の活性化が、地方活動家のネットワーク形成の場を創造し、州政党組織のエリートの刷新も生じさせた。全国党大会段階では、インターネット技術の浸透が、主として民主党全国党大会に新たな活動家の参加を促していることを2012年の党大会の再検証により確認した。従来のメディアイベントとしての党大会とは異なる、政党と活動家を結ぶ、あるいは活動家同士の相互の接触を加速する新たな「コミュニケーション空間」の場としての全国党大会の再生であり、そこではマイノリティの有権者集団の選挙参加の意欲が刺激されている。この点は2016年民主党大会でも継続調査を行った。共和党では民主党と同じようにオンラインによる参加者を促し、予備選挙段階の成果である地方政党組織のエリートの刷新の結果として党内に新たな活動家を包摂している。政権運営段階では、2009年にオバマ陣営のスピンオフ組織として民主党全国委員会本部内に誕生した活動家組織 OFA を新たな「コミュニケーション空間」の事例として検討した。

(2) 第2に、オバマ政権の総括の視点から、民主党が支持基盤の連合形成をめぐる抱える本質的な問題の検討である。この問題が2016年大統領選挙において TPP をめぐる党内分断を決定的にし、民主党敗北を誘発したことを明らかにした。例えば、女性解放運動が人工妊娠中絶の権利擁護というシングルイシューに拘泥してきたことが、党内で貧困、平和などに強い関心のあるカトリック信徒との共闘を阻害する要因になってきたが、そのカトリックは人工妊娠中絶や避妊薬への保険適用に反対し、オバマの医療保険改革の足を引っ張った。また、同じく民主党の基礎票であるアフリカ系が、牧師と教会を基盤にした信仰心を持つ集団であることも、LGBTとの不和の原因であった。南部・中西部に多い文化的保守の民主党支持者は、銃規制法案に反対し、反移民感情ものぞかせる。また、石油・石炭・自動車など化石燃料に関係する産業が多くの労働者の雇用を安定させてきた地域では、代替エネルギーには賛同をえられない。人口動態の変容によるマイノリティの多様化は、アフーマティブ・アクションの存続論争や利益の配分をめぐる綱引きを、

不法移民をも巻き込んで深化させている。伝統的なアメリカ黒人と自由移民のアフリカ系との微妙な関係も新たな問題である。軍需に雇用を支えてもらっている労働組合は、反戦リベラル派とは戦争観が異なりハワイ州の民主党にもその独特の性質が見られる。要するに、主として宗教、雇用、アイデンティティをめぐる問題が、人権、環境保護、経済格差解消など、リベラルな政策の実現を内部的に阻害している。短期的な経済ポピュリズムを超えて、これらに相互の接点を見つけて共闘への道筋を示すことが、次世代のアメリカの民主党の指導者には求められよう。

(3) 第3に、2016年大統領選挙におけるトランプ旋風に象徴される共和党内の反主流派の動力をめぐるアウトリーチ戦略の諸相である。2016年大統領選挙では「反不法移民」が人種カードとして、また「反エリート」が文化的階級カードとして反動的な記号的作用をもたらした。2008年のオバマ陣営は白人人口が過半数のアイオワ州で勝利することで、黒人候補の指名獲得は困難と諦めがちであった黒人層を鼓舞する間接的な黒人アウトリーチを行った。それと同じように、反移民などのカードは、労働組合の組織力を必要としない、間接的な白人ブルーカラー層向けアウトリーチとなっていた。また技術面では、ソーシャルメディアの「空中戦」的な利用と、同じくソーシャルメディアを用いた「空中戦」の「地上戦」化が顕在化した。集会参加者がライブ感覚で実況し、感想を動画や写真と共に掲載するという現象により、参加者自体がメディアとなったが、従来の戸別訪問での説得行為を部分的に代替する波及効果を持ち得た。トランプ陣営、そしてサンダース陣営もこの効果を重視した。他方、トランプへの主流派と宗教右派の支持過程は共和党の新たなアウトリーチのあり方を示唆した。本選挙では党内のキリスト教保守、主流派へのアウトリーチの必要性から、副大統領候補に両グループの信頼が篤いペンスを選抜した。最高裁判事要因を背景にキリスト教保守派の票が同派の信頼が篤いペンス登用で活性化した。

これらの成果にもかかわらず、いくつかの課題も浮き彫りとなった。第1に、トランプやサンダース的な独立系の個性的な候補者の支持層が大統領選挙にしか関心を持たない可能性による影響である。この問題はトランプ政権の支持基盤の安定にも関係する。第2に、2016年アメリカ大統領選挙では、選挙運動技術においてはヒラリー・クリントンが資金、組織、新技術で量的には優勢でありながらも、これらの諸面で劣勢だったトランプに敗北した問題である。候補者要因と選挙技術要因の関係性についてさらなる研究が求められよう。

これらの知見は単著2冊を含む図書をはじめとする以下の諸論文、学会発表で公表された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

1. 渡辺将人「アメリカ政治の壁とリベラルの敗北」『世界』890号 [査読 無] 2017年 pp. 50-57.
2. 渡辺将人「時代とシンクロしたトランプが「風」つかむ：保守エリートへの反乱、16年経て日の目」『Journalism』319号 [査読 無] 2016年 pp. 6-13.
3. 渡辺将人「反クリントンで結束はかる米国民共和党」『外交』vol. 39 [査読 無] 2016年 pp. 108-111.
4. 渡辺将人「アメリカの左派と政党デモクラシー：「サンダース旋風」の文脈を中心に」『生活経済政策』232 [査読 無] 2016年 pp. 16-20.
5. 渡辺将人「アメリカの通商政策における政治過程：オバマ政権下のTPPを中心に」『米国の対外政策に影響を与える国内的諸要因』報告書、日本国際問題研究所 [査読 無] 2016年 pp. 69-79.
6. 渡辺将人「オバマ中東政策にイラク戦争の「長い影」」『季刊アラブ』156号 [査読 無] 2016年 pp. 14-15.
7. 渡辺将人「大統領選の情勢：トランプ台頭は反職業政治家感情」『エコノミスト』3/8 [査読 無] 2016年 pp. 92-93.
8. 渡辺将人「アメリカ民主党の模索：政党の変容とジレンマを中心に」『生活経済政策』号：225 [査読 無] 2015年 pp. 25-29.1.
9. 渡辺将人「次期大統領選挙の展望について」『アメリカ政治の現状と課題(21世紀政策研究所)』号：報告書 [査読 無] 2015年 pp. 19-34.
10. 渡辺将人「2014年中間選挙における民主党敗北の文脈」『立教アメリカン・スタディーズ』37号 [査読 無] 2015年 pp. 19-37.

〔学会発表〕(計 6 件)

1. 渡辺将人「オバマ政権からトランプ政権へ」第21回日韓有識者間政策対話(2017年3月21日)原州(韓国)
2. 渡辺将人「米大統領選を振り返る」2016年度日本コミュニケーション学会北海道支部研究会(2017年3月4日)北星学園大学(北海道札幌市)
3. 渡辺将人「民主党と2016年大統領選挙」日本国際問題研究所・公開シンポジウム「米大統領選挙と米国内政・外交の展望」(2016年8月23日)霞ヶ関ビル(東京都千代田区)
4. 渡辺将人「オバマの時代と民主党：分極化の中で」第50回アメリカ学会年次大会部会C「オバマ政権の功績評価」(2016年6月5日)東京女子大学(東京都杉並区)
5. 渡辺将人「2014 Midterm Elections and American Politics：中間選挙と国内政治」国際

シンポジウム "Japan-US Partnership and Prospects of Asian Regional Cooperation", Waseda University, Organization for Japan-US Studies (2014年11月27日)早稲田大学(東京都新宿区)

6. 渡辺将人「2014年中間選挙とオバマ政権」立教大学アメリカ研究所 公開シンポジウム「岐路にたつオバマ政権：政治・外交・選挙」(2014年10月24日)立教大学(東京都豊島区)

〔図書〕(計2件)

1. 渡辺将人『アメリカ政治の壁—利益と理念の狭間で』岩波書店 2016年, 総247頁.

2. 渡辺将人『現代アメリカ選挙の変貌—アウトリーチ・政党・デモクラシー』名古屋大学出版会 2016年, 総340頁.

6. 研究組織

(1)研究代表者

渡辺 将人 (WATANABE, Masahito)

北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・准教授

研究者番号：80588814

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし